



新村の人口・世帯数	令和3年9月1日現在
世帯数	1,314 戸
男女	1,536 人
合計	1,646 人
合計	3,182 人

夏休みの思い出に 公民館寺子屋開催!!

8月5日(木)・8月6日(金)の2日間、公民館寺子屋が開催されました。昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策を徹底のうえ、2日間で延べ28名の子ども達に参加しました。子ども達は1時間程度、持参した課題帳などで自由に勉強し、その後レクリエーションを楽しみました。初日は、松本大学教育学部の先生と学生さんによるプラスチック板を使ったキーホル



ひまわり畑と上高地線

る子ども達もいました。その後、けん玉検定の技をグループごと体験しました。塾長講話では、田野口塾長が山の話をされました。山登りの魅力、山々に囲まれた松本平の素

ダー作りが行われました。子ども達は思い思いにプラスチック板に絵を描き、それをトースターで加熱するとキーホルダーの出来上がりです。学生さん方の親切丁寧なサポートで、素晴らしい出来上がりとなり、子ども達も大満足の内容でした。

2日目は、けん玉チーム zuku Kendamas から講師の方々をお呼びし、けん玉体験をしました。歳の近い講師の子ども達が技を披露し、それを見て真似をしましたが、思うように技が出来ず、悔しが

晴らしさを写真を交えて話されました。公民館寺子屋は今年で5回目の開催となり、多くの子ども達から「楽しかった。また来年も参加したい。」という感想をいただき、来年コロナが終息していれば、皆で楽しく昼食を食べる予定です。



SDGs講座が 開催されました!

7月26日(月)・27日(火)の2日間、新村公民館で夏休み中の小学生を対象としたSDGs(エスディージーズ)講座が開催され、延べ12名の子ども達が参加しました。

SDGsとは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標のことです。講師には、SDGs公認ファシリテーターの丸山亜希さんをお招きし、「言葉がわからない体験ゲーム 何が起こった? (震災編)」を体験しました。震災時に言葉がわからな

いことから生じる不安な気持ちを体験し、全ての人のとって暮らしやすい「多文化共生社会」をつくるために、自分たちでできることを考えるという内容です。

SDGsに関する教育は、2020年度にスタートした小学校の新学習指導要領にも取り入れられており、将来の社会を実際につくっていくのは今の子ども達であり、子どものときからSDGsに関心を持つよう国策等が推進されていきます。



みんなが暮らしやすい社会って何だろう?

八束穂

新型コロナウイルスの影響で、長い歴史を持つ行事が相次いで中止や縮小開催に追い込まれている。3密回避のためやむを得ないとはいえ、どこか寂しい。しかし、こういう時だからこそ、祭りなどの伝統の継承や地域コミュニティの核となっている各行事の大切さを再確認してほしい▼例えば新村運動会は、人集めや準備の煩わしさなど色々な意見もあり、中止を求める声も聞こえてくる。一方で友達と約束して参加する子ども達や、知り合いとの久しぶりの再会を楽しみに来場する人もいる。開催方法は議論の余地があるが、あれだけ多くの人が一同に会する機会を失うのは勿体ない▼近隣住民とつながりは連帯感を高め、地元への愛着を生む。地域を良くしていくという原動力になる▼価値観が多様化し、変化に合わせた地域作りが求められている。コロナ禍の終息は見通せないが、活気ある新村を再び目指すとき、各活動が必ずその一助となる。現状と課題を見直し、準備を怠らないようにしましょう。

天空の自然観察会

梅雨明けに合わせて計画した7月21日(水)、参加者25名は乗鞍岳の豊平駐車場に降り立ちました。

標高2700m、爽やかなトレッキングの開始です。ガイドツアーをお願いして

説明を聞きながら、ゆっくり楽しむグループや、仲良しグループで、お花畑の高山植物の写真をかかんで撮る姿も。



夏の日差しを浴びて



あの花は何て名前かな？

コマクサ、ハクサンイチゲ、クロユリ、ヨツバシオガマ、イワツメクサなど、花盛りでした。天候にも恵まれ、素晴らしい展望と高山植物を堪能したいち日でした。

シリーズ

新村地区の輝く人

③



ガーデンマスター 関陽平さん

誰でも耳にしたことがある庭師。皆さんどんなイメージですか？庭造りから庭木、芝の維持管理、伐採まで庭に関わる様々な仕事をこなすガーデンマスター、関陽平さん(36歳)にお話を伺いしました。

●庭師になったきっかけはなんでしょうか？
高校から造園とは違う専門学校へ進学した頃、造園に興味を持ったのが最初です。二十歳で市内の造園会社に就職し、そこで基礎から学び、8年目に独立しました。おかげで順調に仕事も増え、今は兄彰太(38歳)と2人で頑張っています。また、大きな現場になると、仲間の職人さんにも助けてもらっています。

●庭師になるには資格は必要ですか？
特に資格などは必要ありません。

せんが、一人前になるには10年かかるといわれます。ただ自分の中では10年ではまだまだだという感じですね。それぞれの木に応じた対応が必要で、常に向上心を持って取り組むよう心掛けています。どうすれば綺麗に仕上げるのか、手入れのスピードが上がり効率良く仕事が出るのか、など考えています。

●屋外の作業なので天候を含め色々苦労がありますよね。
そうですね。雨が降ると滑って危ないので休みます。逆に暑い日は熱中症にも気を付けます。お盆過ぎからは蜂が凶暴になる時期で、特にスズメバチは要注意です。チェンソーで指を切ったり、10尺(約3m)の脚立から落ちたりちよくちよくやらかしています。そういうえばこの仕事を始めて花粉症にもなりましたね。(笑) 自営業なので、仕事の打ち合わせから、現場の段取り、経理など、一人でやらないといけないので大変です。

●でも仕事の成果が目に見えるのでやりがいにもなるでしょう。
はい、やはりお客様からの感謝の言葉が一番嬉しいし、モチベーションがあがります。ボサボサになった木を綺麗に格好よくするわけですから達成感があります。また以前、我家の木を切っていたら子どもたちが脚立に乗りたがり、一緒に木を切りたいと言ってくれました。自分の仕事に興味を持ってくれて嬉しかったです。こういう声を糧にして益々精進していきたいです。

夏のハーブ寄せ植え講座

8月26日(木)、公民館では夏のハーブ寄せ植え講座が開かれました。8名が参加して、日本ハンギングバスケット協会公認講師の竹下光重さんから手順を教わり、ひとつの容器に複数の苗を植え込み、組み合わせで楽しむ寄せ植えを体験しました。

寄せ植えのポイントは、ハーブの好む環境を知っておくことが大切で、性質や生育環境が似ているもの同士と一緒に植えると、お互いの成長を助け合いながら仲良く育つられるということです。今回はローズマリー、チェリーセージ、アロマティカスの3種に各々好みのハーブを加えた4種の寄せ植えを作りました。



講師の説明を受けながら黙々と

話を聞いていました。